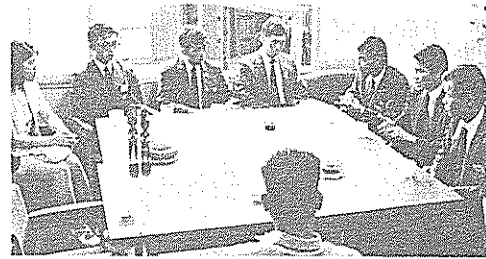


夏をひろう

いまとむかしの接点  
心のふるさと



▲気概と情熱の青年の船

わたしたちのまちからも8名の青年が台湾、沖縄の見学や地元の若者たちと交歓しました。

◀エサの大群にサカナびっくり

子供会のつり大会は後川口の池に220人が参加。日頃の天狗ぶりを競いあいましたが、あまりの人出にサカナがびっくり。大物賞川久保彰人(三和小) 魚数賞西原正人(久礼田小)

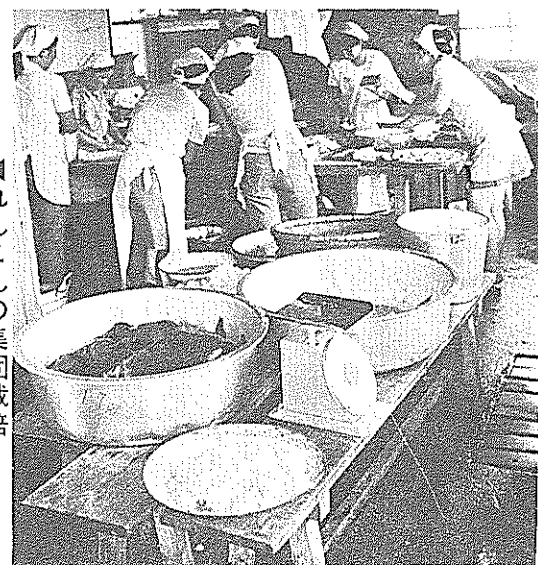


◀あなたの良心買います  
わざわざ良心市といわなければならぬ現代の悲しき、お好きなものをご自由に(大塚・城陸で)



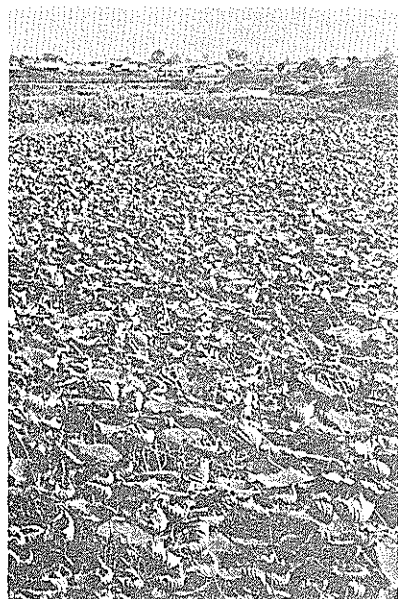
▲香長平野は実験農場

一俵増産から減反、転作へめまぐるしくかわる農政のなかで大型農業機械の開発はすすむ(市内の大手メーカー)



▲きょうのおやつはなんだろう

昨年より100人分少ない330人分を作っているというこの若者の笑顔のような農業はいつの日だろう。(片山で)



れんこんの集団栽培  
山本順義さんから33名は、五町八反歩の田にれんこんを栽培、少なくとも反当30万円は見込まれるという出荷の日ももうすぐだ(前浜で)



自然をはぐくむ明かい太陽、きれいな空気が、そして清らかな澄んだ水、これらはわたしたち人間が生活するうえに絶対必要な大自然が与えてくれた環境です。しかし、こうした自然環境やわたしたちの住むすべての社会環境がむしばまれてつありまます。経済の高度成長は、一方で公害や交通災害などのひずみを生みだし、社会組織の高度化がもたらす人間性の疎外や連帯感のそう失、人間不信など、いろいろの問題がわたしたちの生活を圧迫しています。温度計はうなぎのほりに、そのとどまることを知らないこの盛夏、砂漠のような南州市で「ひとびとは心のふるさとを求めて、ひとり、二人と集まってきました。人ごみの中のお互の肩のふれあいが「生きていくんだな」という実感を感じさせるのだろうか。かわき切った雨のなかにあつて、一抹の心のオアシスもあそんでいるかのように、ひとびとの顔は明るくはすんでいます。

